



檜原村木育・木材産業推進 基本構想

平成 30 年 3 月

目次

I. 檜原村の木材産業の取組み

- 檜原村の森林資源と林業活性化の取組み
- 木材産業活性化の取組み（例）
- 今後の取組み

II. 檜原村トイ・ビレッジ構想

- 構想の経緯
- 檜原村トイ・ビレッジ構想のコンセプト
- 木工房・おもちゃ美術館設立候補地

III. 今後のスケジュールと事業内容

- スケジュール
- 事業内容
- 収支予想

IV. おもちゃ美術館の説明

- おもちゃ美術館とは
- おもちゃ美術館を支える人材育成プランについて
- 全国姉妹おもちゃ美術館との連携

V. 参考資料

- おもちゃ美術館に導入されるおもちゃに関して
- 全国のおもちゃ作家とのコラボレーション

I. 檜原村の木材産業の取組み

■ 檜原村の森林資源と林業活性化の取組み

- 檜原村は多摩川の最大の支流である秋川の源流に位置し、面積は東京都では奥多摩町、八王子市に続き3番目の大きさを持っている。村の総面積の約93%が森林で、村の大半が秩父多摩甲斐国立公園に含まれている。
- 昭和20年～30年代頃には日本全国で戦後復興等のために木材の需要が急増したことから、供給が十分に追いつかない状況となり、政府は「拡大造林政策」を実施。檜原村においても、主に広葉樹からなる薪炭林を伐採した跡地や原野などを、スギやヒノキなどの針葉樹である人工林に置き換えるようになった。
- これにより、檜原村では昭和30年代から40年代にかけて、木材に関連する1次産業と2次産業が活発化し、全体の割合でも70～80%を占め、木材産業が主流な地域として発展したが、その後、低価格の輸入材が多く使用される時代となり、主伐が可能な木材資源が豊富にあるものの、需要が低迷し間伐材を含めた木材利用拡大が大きな課題となってきた。
- 対策として、東京都の森林再生事業や村独自の補助事業である、ひのはら緑（力）創造事業などを活用した林業活性化の取組みが進められてきた。水源かん養や土砂の流出防止、二酸化炭素の固定による温暖化の防止、野生動植物の生息環境の提供といった森林の多面的機能の保全を目的とした森林再生事業や、花粉症対策の一環として間伐を進めたり花粉の出ない樹種に植え替えたりする花粉対策事業なども活用して、森林整備を進めている。
- 同時に、地元の木を使って自宅を建てたときに一定の補助金を出す地場産材利用促進事業や、山から伐った木を市場に出した場合に赤字分を補てんするための地場産材搬出補助などを実施して、地元産材の搬出と活用の促進をめざしてきた。



■ 木材産業活性化の取り組み（例）

➤ 村内公共施設における木材利用促進

- 平成16年度以降に実施した小・中学校各教室の木質化をはじめ、さまざまな公共施設での木材利用を推進してきた。



教室の木質化



村立図書館の内部



ひのはら産材を使用した住宅

➤ 木材のブランド化（平成30年度予算にて実施予定）

- 村内で生産された木材の生産管理過程（トレーサビリティ）を明らかにした上で「ひのはら産材」として販売していく。

➤ 檜原村木材産業協同組合の設立

- 村内の林業事業者や製材業社が連携し、檜原村木材産業協同組合設立。ひのはら産材の売買や販路拡大などを目指す。
- ひのはら産材の付加価値を高めるため、2018年度中に木材天然乾燥施設を建設予定。

➤ ウッドスタート宣言による木材利用の促進

- 子ども達が小さい時から木と触れ合う機会を創ることにより、木に対するイメージを膨らませ、延いては将来的に木材に携わるような仕事につくことも期待することを目的に、村では認定NPO法人芸術と遊び創造協会が展開している木育行動プランである「ウッドスタート宣言」を平成26年12月18日に宣言。
- 現在、檜原村では木育の推進として、出生児に木製おもちゃの贈呈や木のおもちゃと触れ合うことのできる「移動型おもちゃ美術館（木育キャラバン）」などを開催し、子ども達を中心としたさまざまな木と触れ合う事業を展開している。



ウッドスタート宣言



木製おもちゃの贈呈

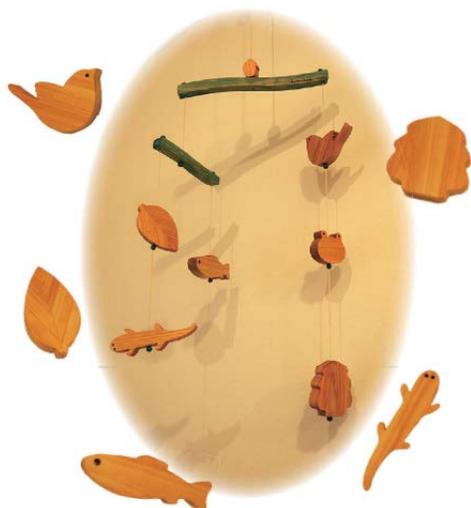
■ 今後の取り組み

➤ 木工・おもちゃ産業の推進

これまで進めてきたひのはら産材の普及に向けた施策は、木材利用の促進に一定の効果
をあげており、今後も推進を図っていくが、更なる展開を目指すべく、また木育行動プランの
一環として、木工・おもちゃ産業の推進を進めて行くことが重要である。

まずは、新たに木工房を設立することにより、林業、製材業、木工業一体型産業として、よ
り一層の発展を推進するとともに、木工業を檜原村の重要産業として推進することで、林
業、製材業、木工業を担う人材の定住による檜原村の人口増加、人口の定着化の効果
の創出を狙う。

【木製おもちゃのイメージ】



檜原村誕生祝い品

II. 檜原村トイ・ビレッジ構想

■ 構想の経緯

- 2014年の秋に『檜原トイ・ビレッジ構想』の検討を開始
- 同年の冬に檜原村で『ウッドスタート宣言』式を開催
- その後も基本構想につながるイベント等を継続開催
 - 檜原村の森のおもちゃ美術館（払沢の滝ふるさと夏まつり：2015/8/22-23）
 - 森のめぐみ子ども博出展（東京おもちゃ美術館：2015/10/17-18）
 - 木育キャラバン in 檜原村（払沢の滝ふるさと夏まつり：2016/8/20-21）
 - 森のめぐみ子ども博出展（東京おもちゃ美術館：2016/10/15-16）
 - 木育キャラバン in 檜原村（払沢の滝ふるさと夏まつり：2017/8/19-20）
 - 森のめぐみ子ども博出展（東京おもちゃ美術館：2017/10/15-16）



木育キャラバン in 檜原村

- 2017年度には2回の木育円卓会議を開催
 - 日程：2017年8月30日、参加者：林業・木工関係者
 - 日程：2018年3月28日、参加者：林業・木工関係者
- ⇒会議のなかでは参加者から構想に対して前向きな意見が出された

■ 檜原村トイ・ビレッジ構想のコンセプト

森林率 93%の檜原村は、“東京都の森”として他の地域にはないブランド力を持っている。世界第 2 位の森林大国日本の象徴が都内にあることの価値を見出し、檜原村の豊かな森の恵みと森林資源を活かした木材・木育産業の推進事業として、新たな観光・エコツーリズムの拠点となる木工房による木のおもちゃ等の製作とおもちゃ美術館を中心とした多世代交流型木育推進事業を柱としたものが「檜原村トイ・ビレッジ構想」である。

檜原村トイ・ビレッジ構想の三大要素

木工・おもちゃ産業の推進

- ・ 檜原村の森林を活かした木工品・おもちゃの製造
- ・ 木工・おもちゃ産業の育成を通じた人口増加・定着化

(仮称) ひのはら森のおもちゃ美術館の設立

- ・ 新たな観光産業ターゲットとしての子育て世代が集まる子育て支援・木育拠点づくり
- ・ 檜原版エコツーリズムとの連携による相乗効果の獲得

人材育成の推進

- ・ 森林たくみ塾などの木工技術専門学校との連携
- ・ 地域人材による運営団体、ボランティア組織の人材育成
- ・ 地域おこし協力隊・地域おこし企業人制度の活用

➤ 木工・おもちゃ産業の推進

- これまでの木工産業をより一層推進するため、木工品・おもちゃの製造を強化する。その第一歩として木工房を設立し、「(仮称)ひのはら森のおもちゃ美術館」のオリジナル什器・家具・玩具等の製造を担うことで技術向上、産業発展のための基盤作りに貢献する。
- 檜原村で製造された木のおもちゃ等は、メイド・イン・トーキョーの木のおもちゃとしてブランド力を高め、2021 年には全国に 10 館の創設となることが予定されている姉妹おもちゃ美術館のミュージアムショップでの販売をすることで、檜原村の地場産業を支える安定したマーケット開拓を行う。

➤ (仮称)ひのはら森のおもちゃ美術館の設立

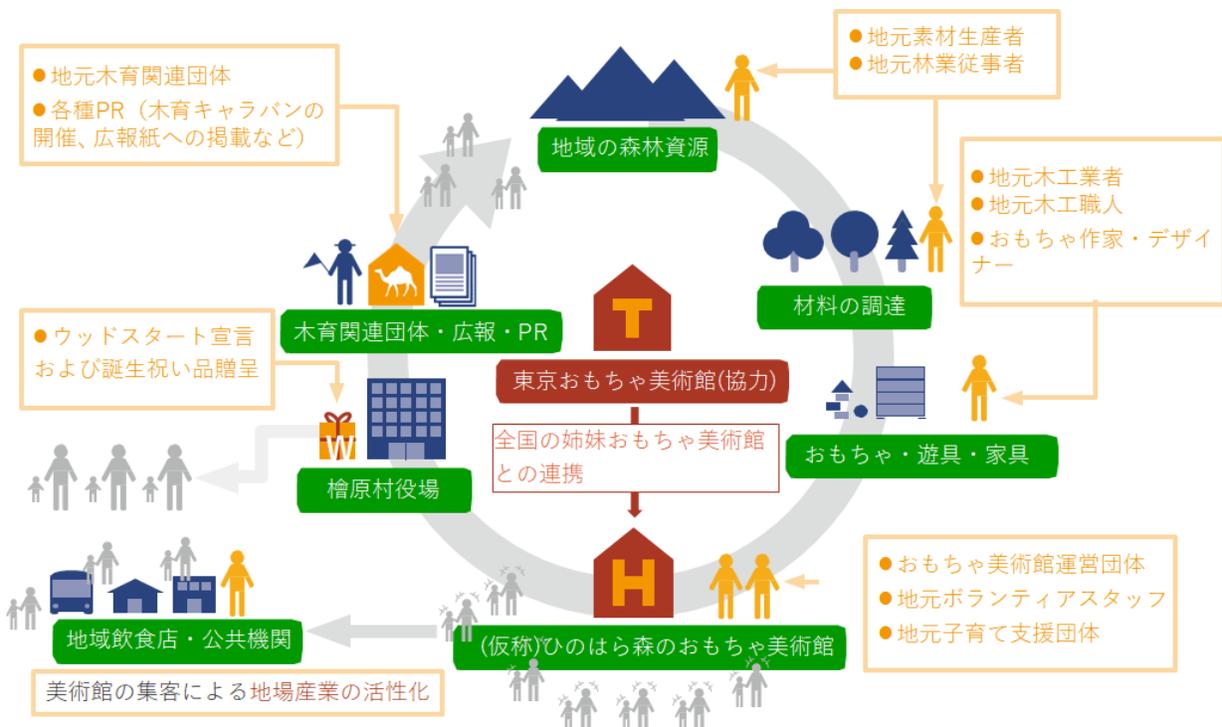
- 年間 15 万人の来館者数をもつ「東京おもちゃ美術館」の協力を得て「(仮称)ひのはら森のおもちゃ美術館」を設立する。
- 内装・家具・玩具に檜原村の森林資源をふんだんに活用することより、木育・木材産業推進拠点としての活用のみならず、エコツーリズム事業との連携により檜原村独自の観光産業の発展に貢献する。
- 子どもたちに楽しみながら木の魅力を伝える「木育空間」として、檜原村の観光産業の新たなターゲットである子育て世代を中心とした観光客の増加を狙う。

➤ 人材育成の推進

- 森林たくみ塾をはじめとした都内・都外の木工技術専門学校との連携により、檜原村の重要産業として発展させていくための人材育成に取り組む。
- おもちゃ美術館の運営団体の人材育成とともに、おもちゃ美術館を支えるボランティア『おもちゃ学芸員』を育成することで、地域交流拠点、多世代交流拠点としての役割も担う。

➤ 檜原村トイ・ビレッジ構想による「地域活性化サイクル」

- 檜原村トイ・ビレッジ構想の実現により、地域に森林資源の活用、新たな雇用の産出、村民の地域資源への興味喚起など、様々な好影響を生み出し、地域活性化に伴う持続可能な社会構築を目指す。



地域活性化サイクルイメージ図

■ 木工房・おもちゃ美術館設立候補地

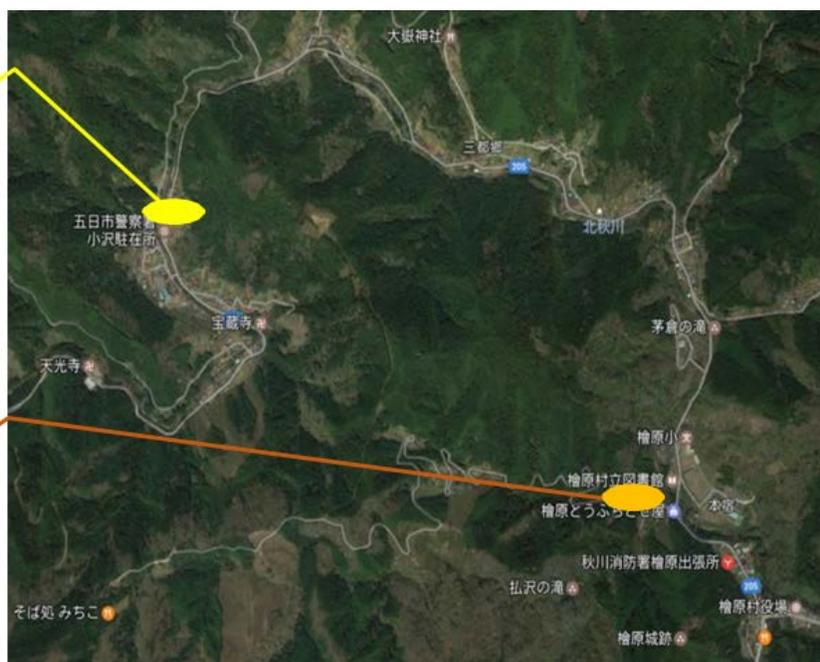
村内の複数の候補地を検討した結果、有力な2つの候補地が選ばれた。

【検討候補①】

北檜原小学校跡地
(小沢地区)

【検討候補②】

四季の里



➤ 木工房・おもちゃ美術館設立候補地①



➤ 木工房・おもちゃ美術館設立候補地②



III. 今後のスケジュールと事業内容

■ スケジュール

		30年度	31年度	32年度
ステップ		<ul style="list-style-type: none"> ①おもちゃ工房 & 收藏庫の立ち上げ ②人材の探索 ③おもちゃ美術館の基本～実施設計 	<ul style="list-style-type: none"> ①木工・おもちゃ産業の市場開拓 ②人材の育成 ③おもちゃ美術館の施工 	
	おもちゃ産業	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 木工・おもちゃ工房の設計～建築 ✓ 木工機械の搬入 ✓ おもちゃ職人となる人材の探索 (2名) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 木工品・おもちゃの商品開発～試作～販路拡大 ✓ おもちゃ職人の育成 	Open!
	收藏庫	<ul style="list-style-type: none"> ✓ おもちゃ收藏庫の設計～建築 ✓ おもちゃ美術館員となる人材の探索 (3名) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ おもちゃ收藏庫の試験的な運用 ✓ おもちゃ美術館員の育成 ✓ おもちゃ学芸員の育成 (主軸:12名/一般:100名) 	
おもちゃ美術館	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 基本設計～実施設計 ✓ 建築予算の確定 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 建築工事 ✓ 内装工事 ✓ 遊具・什器等の搬入 		

■ 事業内容

		平成30年度	(参考)平成31年度
項目	木工・おもちゃ産業	<ul style="list-style-type: none"> ✓技術・開発・販路開拓指導 【業務内容・・・コンセプト設計、商品開発、制作支援(※)】 (※)主に工房立ち上げ・機械関連 ✓設計(おもちゃ工房・おもちゃ收藏庫の一体建物) ✓建築(おもちゃ工房・おもちゃ收藏庫の一体建物) ※前提:工房部分延床面積75坪、收藏庫部分延床面積55坪 ✓木工機械購入 	<ul style="list-style-type: none"> ✓技術・開発・販路開拓指導 【業務内容・・・コンセプト設計、商品開発、6次産業化支援、制作支援】
	おもちゃ美術館	<ul style="list-style-type: none"> ✓総合監修 【業務内容・・・プロジェクトチーム運営、プラン統括、関係者調整等】 ✓設計(おもちゃ工房・おもちゃ收藏庫の一体建物、おもちゃ美術館) 【業務内容・・・基本設計、実施設計、設計管理】 ※前提:おもちゃ美術館・建築延床面積100坪×3層=300坪 ✓デザイン 【業務内容・・・美術館建築デザイン監修、内装設計】 	<ul style="list-style-type: none"> ✓建築・内装工事・遊具・備品等製作 ✓人材育成・広告・PR

■ 収支予想

➤ おもちゃ工房事業

(単位：千円、%)

	初年度	2年度		3年度		4年度	
	(32年3月期)	(33年3月期)	前年比	(34年3月期)	前年比	(35年3月期)	前年比
売上高	6,000	9,000	150	13,500	150	17,550	130
売上原価	1,800	3,240	180	4,875	150	6,326	130
売上総利益	4,200	5,760	137	8,625	150	11,225	130
人件費	6,969	7,108	102	7,251	102	7,396	102
賃借料	100	100	100	100	100	100	100
減価償却費	0	0		0		0	
リース料	0	0		0		0	
その他管理費	2,120	2,210	104	2,345	106	2,467	105
小計	9,189	9,418	102	9,696	103	9,963	103
営業利益	-4,989	-3,658	73	-1,071	29	1,262	-118
営業外収益	0	0		0		0	
営業外費用	0	0		0		0	
経常利益	-4,989	-3,658		-1,071		1,262	
【検討】							
原価率	30.0	36.0		36.1		36.0	
人件費比率	116.2	79.0		53.7		42.1	
営業CF (簡易)	-4,989	-3,658		-1,071		1,262	

➤ おもちゃ美術館（ミュージアムショップ含む）事業

収入			
入館料	34,000,000	2000万円：1,000円×約2万人（大人） 1400万円：700円×約2万人（子ども）	①年間入館者数4万人（内訳：市内10%、市外90%）を想定。 ②土日20,000人（100日×200人）、祝日・長期休暇10,000人（50日×200人）、平日10,000人（150日×50人～80人）※週1日（平日）休館日を想定
寄付金・助成金	1,000,000		①木育、観光など各種財団が公募する助成金等の活用 ②檜原村を故郷とする方々を対象に、寄付制度として「一口館長」制度の実施 ③地元企業、エコツーリズム・地域活性化事業に携わる事業者とのコラボレーションによるファンディング・プロジェクトの実施
ミュージアムショップ売上金	9,000,000	300万円（平日）：2万円×150日 600万円（土日・祝日）：4万円×150日	新設される木のおもちゃ工房で製作される木のおもちゃをはじめ、国内の木のおもちゃ作家の玩具、世界の優良玩具を販売する
収入合計	44,000,000		

支出			
人件費	24,240,000	364万円：26万円×14カ月（正職員／チーフディレクター）	①事務兼受付担当のディレクター（1人）とパート（2人）：4万人の入館者の入館料の授受や各種インフォメーションなど、接客の要となる。また、2000万円を超える財務規模の経理、及び、スタッフの給与計算、年間600人を越えるボランティアの実施弁償の支給、その他に対応など総務的な業務を担う。パートは1日8時間、週4日、時給1150円で計算。 ②ショップ店長担当のディレクター（1人）とショップパート職員（2人）で仕入れ、販売、接客、帳簿付けなどを担う。パートは1日8時間、週4日、時給1150円で計算。 ③チーフディレクター（1人）とサブディレクター（2人）：コアメンバーのトロイカ体制。館内の総合管理、及び、おもちゃ学芸員等のボランティアのコーディネートを担当する。④館内ディレクター：嘱託職員（1人）ディレクターを補佐するスタッフ。
		322万円：23万円×14カ月（正職員／サブディレクター）	
		322万円：23万円×14カ月（正職員／サブディレクター）	
		240万円：20万円×12カ月（嘱託職員／ディレクター）	
		240万円：20万円×12カ月（嘱託職員／事務兼受付）	
		240万円：20万円×12カ月（嘱託職員／ショップ店長）	
		174万円：14.5万円×12カ月（パート／週4日、事務兼受付）	
		174万円：14.5万円×12カ月（パート／週4日、事務兼受付）	
174万円：14.5万円×12カ月（パート／週4日、ショップ）			
174万円：14.5万円×12カ月（パート／週4日、ショップ）			
社会保障・その他	4,600,000	300万円（社保） 120万円（交通費） 40万（その他）	
ボランティア管理費	1,500,000	500円×10人×300日	「おもちゃ学芸員（ボランティア）」への実費弁償（交通費）費用 1日10名（午前5名、午後5名）、1人半日あたり500円を想定
事業費	1,200,000		おもちゃ美術館での檜原村の文化や風土に有った各種イベントの開催費
設備費	600,000		館内の玩具・遊具などのメンテナンス費、屋外の新設遊具の購入費
家賃等	500,000		土地所有者への支払に充当する費用
消耗品	600,000		①手作りワークショップの道具代や材料費や館内玩具、遊具などの購入費 ②事務所消耗品費など
姉妹おもちゃ美術館加盟費	800,000	入館者一人あたり20円×4万人	全国姉妹おもちゃ美術館連携協定に基づく協定加盟費。NPO法人芸術と遊び創造協会による全国のネットワークを活かした研修、広報等各種支援体制整備を目的とする。
研修費	300,000		①東京おもちゃ美術館での定期研修費及び旅費等（年2回）、館長会議旅費等（年1回） ②檜原村での館長会議＆経営会議旅費等（年1～2回）+その他
玩具仕入、その他	6,500,000	900万円（売上見込み）×7割+その他	ミュージアムショップの玩具仕入れ費用
予備費	3,160,000		①突発的なイベント等の出費 ②その他、当初予定にない出費
支出合計	44,000,000		
収支差額	0		

※備考

光熱費については、檜原村との契約内容（指定管理契約等）により変動することが想定されるため、本収支予算案の支出項目に含まない。
人件費については、最低賃金として計上しており、運営団体の給与基準に基づいた検討の必要性がある。

IV. おもちゃ美術館の説明

■ おもちゃ美術館とは

➤ 東京おもちゃ美術館に関して

東京おもちゃ美術館は、赤ちゃんからお年寄りまでの多世代にとって、おもちゃや遊びを通して豊かな出会いと楽しみを体感できる体験型ミュージアムである。2008年春、東京都中野区から新宿区に移転し、330名を超えるボランティアスタッフ「おもちゃ学芸員」をはじめ、地域の方など多くの方々と協力し、運営を行っている。11教室を使った豊かな空間には、世界中からやってきた美しいおもちゃ、日本の伝統的なおもちゃ、心を癒す国産の木製玩具を多数揃えている。

➤ 東京おもちゃ美術館が大切にしている4つのこと

- 市民立の美術館：「市民立」のミュージアムとして、「一口館長制度」に基づくお金の寄付と、ボランティアスタッフである「おもちゃ学芸員」の時間の寄付によって成り立つ。
- 親子で遊ぶ美術館：親と子どものコミュニケーションをより円滑にすることによって得られる、共感や信頼、そして豊かな感性を創出できるよう、グッド・トイやおもちゃ学芸員が応援する。
- 世代を繋ぐ美術館：「多世代交流の館」として、0歳から100歳まで、さまざまな世代の方が、おもちゃを媒介に自然と楽しいコミュニケーションがとれる「老若男女共同」の環境を提供する。
- 文化を伝える美術館：洋の東西を問わず、和の色や木の文化、それに伝承遊びなど、遊びを通じて感じ、そして、楽しむことが出来る「文化」や「知恵」を絶やさないためにも、次世代に語り継ぐ。

【基本データ】

年間来場者数：約 150,000 名

メインターゲット：①30才代を中心とした子育て親子層、②シニア世代（60代・孫育て層）

ボランティア（おもちゃ学芸員）登録者数：約 330 名（年間参加者数：約 4400 名）

【東京おもちゃ美術館の特徴】

・全国 30ヶ所の国産材の活用

・国内おもちゃ作家 100 人の参画

・日本屈指のボランティア組織

・全国人気No.1 の赤ちゃん広場の設置

■ おもちゃ美術館を支える人材育成プランについて

どんなに優れたハード（空間）であっても、それを十分に生かすソフト（人材）がなければ、活かすことができない。(仮称)ひのはら森のおもちゃ美術館では、東京おもちゃ美術館で培った「ボランティア養成」のノウハウを活かし、「おもちゃ学芸員」というシステムを導入する。

➤ おもちゃ学芸員とは

- (仮称)ひのはら森のおもちゃ美術館は、木の魅力、さらには地域の歴史と伝統を「おもちゃで遊ぶこと」で、また「空間を楽しむこと」で伝える美術館である。そこで伝道師となるおもちゃ学芸員には、地元の木に対する知識と歴史を知るだけでなく、世代を超えたお客様をおもてなす「ホスピタリティ」が求められる。美術館設立に向け行う数々のプログラムにより見地を深め、さらに年間 4500 人のボランティアを受け入れる、東京おもちゃ美術館の学芸員養成プログラムのノウハウを加えることで、おもちゃ美術館にふさわしいボランティアスタッフの養成を行う。



➤ 人材育成の目標と方向性



- 募集範囲：檜原村及び東京都西部地域の住民
- 年齢層：18歳～80歳（とりわけシニア世代をメインターゲットとする）

- 属性：檜原村及び東京都西部地域の木育・林業従事者、保育園・幼稚園の先生、林業家、芸術と遊び創造協会関係者などを中心に広報を行う。
- フォローアップ：資格取得後も、講座やサークル開催などへの参加特典を付与し、継続的な参加を促すとともに、ただのボランティアにとどまらない「生涯学習の学び舎」としての機能を継続する。
- おもちゃ学芸員特典（案）
 - ・ご本人及び帯同者 10 名までの入館料無料
 - ・おもちゃ学芸員 1 人 1 人に名刺の配布
(名刺を持参されたお客様は入館料半額サービス)
 - ・スタッフ主導による外部施設見学会の企画

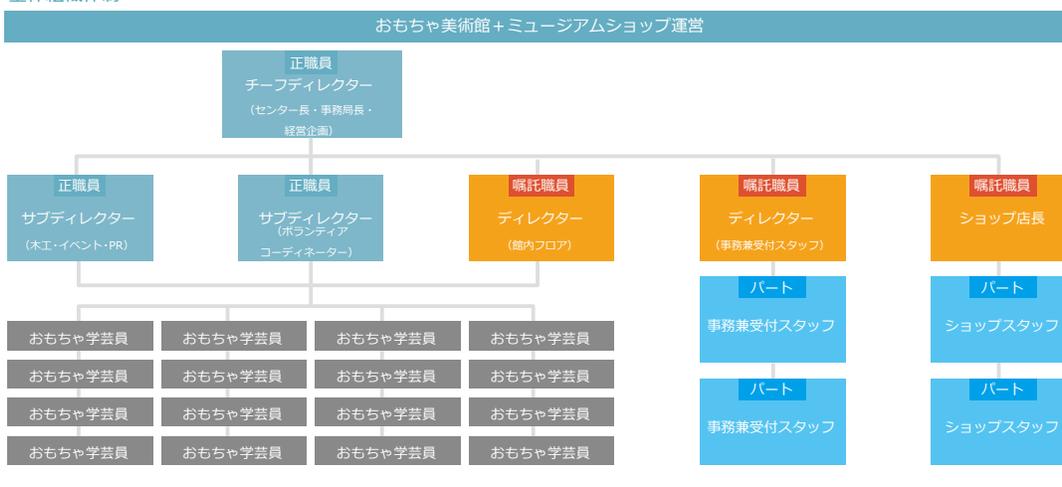


おもちゃ学芸員活動イメージ

➤ 組織体制案

- おもちゃ美術館（ミュージアムショップ含む）の運営にあたり、運営団体の有償スタッフとボランティア「おもちゃ学芸員」による運営体制を整える。

全体組織体制

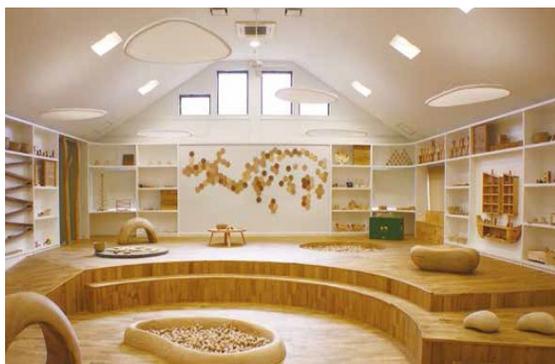
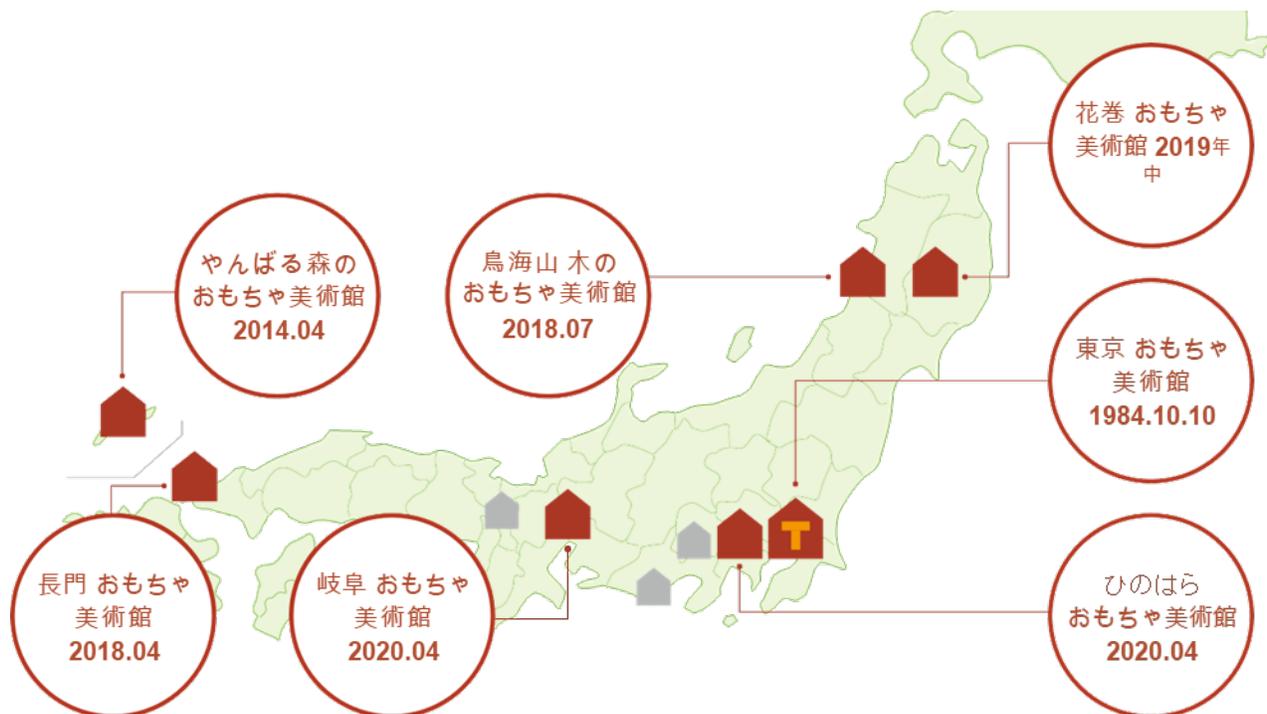


全日組織体制予想



■ 全国姉妹おもちゃ美術館との連携

2021年には全国に10館の創設とすることが予定されている姉妹おもちゃ美術館との連携により、檜原村木育・木材産業の全国規模での推進に活かす。



▲ やんばる森のおもちゃ美術館（沖縄県国頭村）



▲ 長門おもちゃ美術館（山口県長門市）



▲ 鳥海山木のおもちゃ美術館（秋田県由利本荘市）



▲ 富士山おもちゃ美術館（仮）（山梨県富士吉田市）

V. 参考資料

■ おもちゃ美術館に導入されるおもちゃに関して

(仮称)ひのはら森のおもちゃ美術館に導入されるおもちゃは、地域木材を活用したオリジナルの木のおもちゃを中心に大型遊具、他樹種プールなど、東京おもちゃ美術館でも人気のコンテンツを取り入れる。

地域材を使った大型遊具・什器など



オリジナルの木製おもちゃ



▶参考写真) 島海山木のおもちゃ美術館のオリジナルおもちゃ

けん玉、こま、わらべ歌などの日本の伝統あそび



グッド・トイ認定玩具：



おままごと、ボードゲームなどの人気コンテンツ



制作協力：



東京おもちゃ美術館



認定NPO法人
芸術と遊び創造協会